

遺伝医療をもっと身近に!

「遺伝に対する心配事がある」「私自身か、今妊娠中の赤ちゃんに、将来遺伝病が出るのではないでしょうか」など遺伝や遺伝子に関する相談(遺伝カウンセリング)を行っています。また、必要に応じて遺伝子診断を行っています。

診療体制

具体的な診療・相談の内容に応じて、遺伝医療を専門とする各領域の専門医(臨床遺伝専門医)5名や、それに準じた医師が遺伝カウンセリングを行います。また、看護師や臨床心理の専門家、認定遺伝カウンセラーが必要に応じてサポートします。

対象疾患

遺伝性疾患や遺伝子変異による疾患全般(遺伝子変異による先天異常症候群、家族性腫瘍、妊娠中の胎児の異常、染色体異常症、難聴など)のほか、遺伝全般に関わる相談(ただし、親子鑑定はお受けしておりません)。

診療、研究実績

一般的な診療についての実績

年間100件以上の相談者が遺伝カウンセリングに訪れています。また、必要に応じて遺伝子検査に関する説明を行って、検査を実施しています。院内の他の診療科や他施設とも連携して遺伝子診療に当たっています。

高度医療の取り組み・研究

- ①家族性腫瘍(家族性大腸ポリポーシス、遺伝性非ポリポーシス大腸がん、遺伝性乳がん・卵巣がん)
- ②難聴遺伝子検査(遺伝性難聴)
- ③先天異常症候群遺伝子検査(遺伝子変異の検出とアレイCGH検査による微細なDNA欠失と重複の検査)



感染管理のエキスパート集団

感染対策チーム(ICT)を基盤として組織された部局で、検査部との緊密な連携のもと、病院内で発生するあらゆる種類の感染症の診療に携わっています。感染対策全般を受け持つ組織であるICTの中核でもあります。

診療体制

感染症専門医(ICD)7名、感染対策専任看護師長(ICN)1名、看護師4名、検査技師、薬剤師、放射線技師で構成。包括かつ適正な感染症診療と感染対策の実施や、予後の改善、医療コストの削減、耐性菌の減少をめざしています。

対象疾患

各診療科からの感染症コンサルテーションのほか、検査部との連携により重篤、かつ特別な対応が必要な感染症、あるいは院内感染対策が必要な感染症を迅速に把握し、最新のエビデンスに基づいた感染症診療と感染予防対策を行っています。

診療、研究実績

一般的な診療についての実績

平成22年度の全感染症診療実績は約1,000件。うちコンサルテーションと血液培養陽性例が各々400件を超えています。抗菌薬については、薬剤部TDM室と連携し、グリコペプチド系薬やアミノグリコシド系薬などの適正使用を図っています。

高度医療の取り組み・研究

- ①薬剤耐性菌に関する研究
多剤耐性緑膿菌やバンコマイシン耐性腸球菌(VRE)、市中感染MRSAなどの薬剤耐性菌に関する基礎および臨床研究を行っています。
- ②免疫不全者における感染症の診断・治療・予防に関する研究
臓器・造血幹細胞移植や免疫レギュレーター治療などに伴う感染症の診断と治療、感染予防に関する研究を行っています。
- ③新たな感染症検査法の評価および開発
新しい遺伝子増幅技術による結核の早期診断、結核感染の新しい診断キットであるQFTの評価、他新たな感染症検査法の評価および開発を行っています。
- ④病院感染対策の実施(職業感染予防を含む)
MRSAなどの薬剤耐性菌をはじめとし、伝播リスクのある様々な細菌、ウイルス性感染症などへの感染対策に関する情報をできる限り早期に把握し、的確な指示やマニュアルにより感染拡大防止を図っています。また、主要な施設内感染症(耐性菌、中心静脈カテーテル感染、創部感染など)のサーベイランス調査から得られる指標の推移を常時監視し、必要に応じて改善のための介入を行っています。さらに、ワクチンや針刺し・血液曝露対策などの職業感染予防をマネジメントしています。

